

# ダニエル・カールの

# 消防団

第12回

高知県の町

# たずねあるき

## はじめに

今回の「消防団たずねあるき」は、高知県の町にうかがいました。

ついに四国に上陸です。これまでも行きたいと思っはいたのですが、なかなかスケジュールが合いませんでした。

高知県と言えば一本釣りで有名な鰹や柚子を始めとする農産物、それから清流四万十川などが有名ですが、一番はなんと言っても坂本龍馬でしょう。何しろ空港の名前からして「高知龍馬空港」ですからね。また、平成22年にNHKの大河ドラマで取り上げられたことは記憶に新しいところです。歴史上の人物として大変に人気のある坂本龍馬は今も高知のPRに一役かっているようで、空港にも街中にも駅にもあちらこちらに「龍馬」の文字があります。

空港からはバスで高知駅へ、そこから土讃線で伊野駅に向かいます。

今回お邪魔するいの町は、古くから土佐和紙の産地として栄えたそうで、現在も「いの町紙の博物館」で当時の様子うかがえます。

今日の対談の場所は仁淀消防組合消防本部です。早めに着いたので駅から歩いて向かいま

す。国道33号線を渡って商店街に入ると昔ながらの街道といった感じです。昔の四国巡礼のお遍路さんたちもきつこの道を通ったことでしょう。古い木造の建物が残っていて風情があり、歴史を感じさせます。

さて、この町の消防団員さんからはどんな話が聞けるでしょうか。

**ダニエル** 今日はよろしくお願いします。

**別役団長** こちらこそ。ようこそおいでくださいました。

こちらにおいでになったのは初めてですか。

**ダニエル** はい。高知県には何度か来っていますが、いの町にお邪魔するのは初めてです。山が近くに見えて、とても良いところですね。

**別役団長** ありがとうございます。今日は、天気も良くてほっとしています。

**ダニエル** 個人的に山が大好きなので、なんだかワクワクしてしまいます。それにしても今日は室内で対談するのがもったいないようないい天気ですね。外の河原で芋煮会でもしながらやりたいです。

**別役団長** 同感です。次回はぜひそうしましょう。

## 消防団たずねあるき



前列左からダニエル、別役団長、後列左から下村副団長、大岡副団長、竹村分団長、竹本分団長

## いの町消防団について

対談の場所は消防本部の3階です。窓の外にはうっすらと色づいた山並みが近くに見え、気持ちの良い風が入ってきます。それでは、お話をうかがっていきましょう。

**ダニエル** いの町消防団について教えてください。

**別役団長** 1本部、3方面隊15分団の体制です。伊野町、吾北村、本川村が合併し、団員数は419名でそのうち13名の女性消防団員がいます。

**ダニエル** 合併というのは、平成の大合併ですか。

**別役団長** そうです。平成16年の10月に合併しました。

**ダニエル** どんなお仕事の方が多くですか。

**別役団長** 農業、林業などいろいろありま

すが、やはり最近はサラリーマンが多いですね。  
**ダニエル** 全国的にそうですね。以前と変わってきましたか。

**別役団長** そうですね。20年くらい前には自営業が多かったのですが、そのお子さんが家業を継がなかったりするケースもあって全体的に高齢化してしまいました。これも時代の流れでしょう。

**ダニエル** どんな対策をとっていますか。

**別役団長** サラリーマンが多いと、どうしても平日の昼間の消防力が弱くなってしまいます。そこで、いの町消防団では、役場職員を対象にした役場団員や居住地で活動する居住地団員という機能別消防団員を採用して対応しています。

また、消防団協力事業所表示制度も運用を開始しており、事業所の消防団活動への理解をお願いしているところです。

**ダニエル** いただいた資料によると平均年

# 消防団たずねあるき



別役団長とダニエル

年齢45.4歳ということで、やや高いですね。

**別役団長** はい。全国的な傾向のようですが、この町消防団もそのような状況です。

**ダニエル** でも、その分経験豊富なベテランの消防団員が多いということですね。

**別役団長** そういことです。20年以上勤務している消防団員も多くいます。

**ダニエル** つまり、何でもできる団員さんがそろっているということですね。

今日お集まりの皆さんもベテランの消防団員さんとお見受けしますが、何年くらい勤務されているのですか。また入団したきっかけはどんなことですか。

**竹本分団長** 私は入団して27年になります。もともと高知市内に住んでいたのですが、昭和55年からこちらでお世話になっています。こちらに来た時に消防団からお誘いがあり入団しました。祖父も父も高知市の消防団員でしたので、特に抵抗もなく入団しました。

**ダニエル** 竹村分団長はいかがですか。

**竹村分団長** 35年になります。

**ダニエル** すごいですね。小学生の時代から消防団員だったのですか。

**一同** (笑)

**ダニエル** 入団したきっかけはなんですか。

**竹村分団長** 消防団員だった叔父に誘われて入団しました。気がつけば、ずいぶん長く消防団員として活動してきましたが、入団した時には、若い頃のことですから、特に使命感を持っていたわけではありません。

**ダニエル** なんとなく入団したのかもしれませんが、ひとつのことを35年も続けるというのは、並大抵のことではないですね。今日お集まりの中でも一番長いのではないですか。

**下村副団長** そうですね。このメンバーの中では竹村分団長が一番長いです。

**ダニエル** すごいですね。大岡副団長はいかがでしょう。

**大岡副団長** 私は、竹村分団長より1年ほど少ないです。34年くらいですね。

**ダニエル** そうですか。それもすごいなあ。入団したきっかけを教えてください。

**大岡副団長** 実はこの消防本部ができる時に、地元の副分団長をしていた方から消防職員にならないかと誘われました。

私は東京で会社員をしていたことがあり、その会社では自衛隊へ体験入隊するという研修がありまして、朝5時30分起床で「気をつけ!」「敬礼!」とやらされました。

消防職員も同じようなことをしなければならぬようなイメージがあったので、「それじゃ消防団に入るよ」ということで入団しました。

きっかけがそういうことでしたから「何かやってやろう」と意気込んで入団したわけではありません。でも、入団してから魅力、やりがい

## 消防団たずねあるき

を感じ、今日までやってきました。

**ダニエル** どんなところに魅力を感じましたか。

**大岡副団長** 入団してすぐ消防学校に入校し、ポンプ操法を学びました。その後、ポンプ操法の選手となり23年ほどそれに携わることになりました。

**ダニエル** ポンプに魅力を感じたということ機関員ですか…

**大岡副団長** 機関員ではなく、私は二番員というホースを延長して結合するという役割でした。

**ダニエル** それ面白かったということですか。

**大岡副団長** 初めはそうでもなかったですが、だんだんと…

**下村副団長** やはり、全国大会で優勝するという目標を掲げて一生懸命やりますからね。現に、いの町消防団は過去に3回全国優勝していますし、昨年の全国大会でも準優勝でした。

**ダニエル** そうだったんですか。いまさらですがおめでとうございます。

**下村副団長** 自慢ではないですが、四国の消防団でポンプ車操法で優勝したことがあるのは、いの町消防団だけです。

**ダニエル** 成績優秀ですね。消防団の世界では有名でしょう。

**下村副団長** 全国大会に11回出場して3回優勝していますから、ある程度は知られていると思います。

**ダニエル** そうだったんですか。初めて聞きました。失礼しました。

**一同** (笑)

**ダニエル** すごいですね。でも、あまり強

いと「あそこの消防団には負けないぞ」とライバル心をむき出しにされるということになりませんか。

**下村副団長** そんなことはないですが、以前は各地の消防団が視察に来られたり、訓練のビデオを送ってくれという依頼がけっこうありましたね。

**ダニエル** これは自慢できますね。どんどん自慢してください。

**下村副団長** 町も消防団に理解がありまして、それが良い結果につながっているのだと思います。

**ダニエル** 大岡副団長が感じた魅力が良くわかりました。次に下村副団長をお願いします。

**下村副団長** 私は入団して32年くらいになります。

**ダニエル** 皆さんが入団されたのは、大体オラが初めて日本に来た頃ですね。

それで入団のきっかけは何でしたか。

**下村副団長** 私の住んでいる地域は農業地域で、当時は消防団に入団して一人前という感じでした。先輩がやめると入団できるという感じで入団するのに順番待ちという状況でした。

私も皆さんが言われたのと同じで、消防団に入って何かをしようとは思っていませんでしたし、こんなに長く勤めるつもりもありませんでした。

**ダニエル** 前に聞いた話で、ある日家に帰ったら玄関にハッピーが置いてあって「いよいよ俺の番だな」ということで入団することになったというのがありましたけど、こちらの消防団ではそういうことはないですか。

**下村副団長** そういうことはないですね。私の場合は幹部の方が誘いに来てくれて入団しま

## 消防団たずねあるき

した。

**ダニエル** そこにひとつのコミュニケーションがあったんですね。

**下村副団長** そうですね。でも、最近は農家も後継者不足で、先ほど団長のお話にもありましたが、農業を継がずに会社員になるということが多く、農家の若い人が入団するということがほとんどありません。

**ダニエル** それは残念ですね。

ところで団長は入団して何年になりますか。

**別役団長** 何年ぐらいに見えますか。(笑)

**ダニエル** わかりません、わかりません、日本の方は皆さん若く見えますので。(笑)

どんなきっかけで入団されましたか。

**別役団長** 昭和50年の台風で、私の住んでいた地域はほとんどの家屋が被害を受けました。その頃、私は病気の療養中だったのですが、ほぼ回復していたこともあり、その台風災害がきっかけで勧誘を受け入団し、現在に至っています。

**ダニエル** 今のお話で思い出しました。こ

ちらの消防団はどんな災害に気をつけていますか。

**別役団長** 高知県は台風の通り道という場所ですので、台風による風水害が気になりますね。急斜面がありますので、大規模な土石流が発生したら大変です。

これは全国的な問題ですが、かつて杉や檜が植林された山が放置され、人工の山林が荒廃し地面が軟弱になってしまっていますので、大きな災害につながらないかと心配しています。

**ダニエル** 確かに台風が心配な地域というイメージがありますね。

**別役団長** 最近、県全体で山林の荒廃に対しての対策がとられ始めたので、多少は緩和されているとは思いますが、まだまだ心配ですね。

**ダニエル** 川の氾濫はどうですか。

**別役団長** 町内を仁淀川という一級河川が流れています。この川は清流として有名な四万十川にも劣らないほど水質の良い川ですが、やはり、氾濫すれば大変なことになります。

3年ほど前のことですが、その川の水位がぎりぎりのところまで上がり、消防団員全員が非常招集されるということがありました。

**ダニエル** 緊張しますね。

**下村副団長** 実は多くの消防団がそうなのですが、我々は消防団員と水防団員を兼ねています。

**ダニエル** そうだったんですか。いやますますお忙しいですね。

**下村副団長** 大雨が降って、仁淀川やその支流が氾濫しそうだということになれば、当然、出勤することになります。昔から、夏場の出勤は水防のための出勤の方が多かったです。最近でこそ台風の直撃は少なくなりましたが、以前



消防団旗を囲んで

# 消防団たずねあるき

は台風が来ると召集のサイレンが鳴って出動するということが度々ありました。

**ダニエル** 夏休みもあまりゆっくりできませんね。

**下村副団長** そうですね。私が経験した中で一番ひどかった時は、出動したまま三昼夜かかったことがありました。

**ダニエル** 大変ですね。台風のコースもいろいろですからね。

**下村副団長** なかなか読めませんね。最近の台風でも天気予報でコースを見ていたら高知県を直撃しそうなので警戒していたのですが、実際には太平洋の沖の方を通ったので、雨も風も弱く大事には至りませんでした。逆のコース、瀬戸内海や日本海の方に行くと雨も風もすごく強くなるのです。

**ダニエル** たまたま運が良かったということですね。

**下村副団長** そのとおりです。ですから、その状況に安心しきってはいけないと思います。

**ダニエル** そうすると消防団の訓練にも台風や河川など水を意識したものが必要ですね。

**別役団長** いの町では、警察署、消防署、消防団が合同で舟艇訓練という訓練を毎年実施しています。

**ダニエル** そういえば、消防本部の裏手にボートが置いてありましたね。

**別役団長** 夏休みには多くの人が川に遊びに来ます。そうすると、どうしても水難事故が発生することがあります。溺れて流された人を検索するためには舟を使うことが効果的ですから、そのための訓練をしています。全国的にも珍しいと思います。

最近あまりやっていますが、以前は木流

し工法やシート張り工法といった水防訓練をけっこうやっていました。

**下村副団長** 最近では県の防災訓練でも、大地震や津波を想定したものが増えましたからね。昔はそういう訓練よりも河川の氾濫に重点を置いたものが多かったですね。

**ダニエル** そうでしょうね。南海地震の発生が危惧されていますし、特に高知県は太平洋に面していますからね。でも、こちらは比較的内陸部なので、津波の被害はそんなに受けないのではないですかね。

**下村副団長** 町内に仁淀川の堰がありまして、東日本大震災クラスの津波であればその堰までは津波が来て、被害が出る可能性があるという予想があります。

**ダニエル** そうですか。オラも被災地にボランティアで行って、津波の爪痕を見たのですが「こんなところまで来たのか」という所がありますからね。

**下村副団長** 東北とは海岸の地形が違うので、あれほど被害にはならないとは思いますが、東日本大震災の津波では、しばしば「想定外」という言葉が使われましたから気になりますね。

**ダニエル** 台風にも備え、津波にも備え、それから消防団ですからもちろん火災にも備えと大忙しですね。

何かと忙しい現代の日本で、他に生業を持ちながら消防団員は地域防災の要として活躍しているわけですが、いの町の消防団員が水防団員でもあるとは知りませんでした。

# 消防団たずねあるき

## 消防団を取り巻く環境

**ダニエル** 地域の皆さんの消防団に対する見方は変わっていますか。

**下村副団長** 昔は消防団のことを地域全体で応援してくれました。今でも応援してくださる方はいるのですが、人によって温度差があるように感じます。

**ダニエル** 地域コミュニティのまとまりが、昔と比べると弱いということですかね。全国的にそうみたいです。やっぱりみんな忙しすぎるのではないですかね。

**下村副団長** 例えば飲み会にしても、昔は近所の人と飲むという機会が多くありましたけど、今は少なくなりましたね。

**ダニエル** どうしても、会社関係などになりがちでしょうね。そういう生活になったということですね。

**竹本分団長** 私の住んでいる地域は、古くからの住人と新しい住人が入り交ざっているのですが、消防団と町内会は良好な関係で、消防団は地域の運動会のお手伝いをするなど住民の方から頼られる存在です。分団旗も町内会から寄付していただきました。

**ダニエル** 上手く行っているところもあるんですね。良い近所づきあいというか…、先日パネルディスカッションでこういう話をしました。絆ということですね。

**竹本分団長** 私の住んでいる地域はとても絆が強いです。

**ダニエル** 地域によっても、世代によってもいろいろですね。全体が変わってきていますね。

**下村副団長** 何かが起こると絆の大切さが見

直されるのですが、何もないとどうしてもそういう意識が薄れてしまいますよね。もちろん何も無いのが一番ですが。

**ダニエル** 東日本大震災以後、東北地方では絆という言葉がひとつのキーワードになっていると感じます。そしてそれは全国的な動きになっていて、西日本からも多くのボランティアが震災の被災地を訪れ活動しています。これからは日本全体の絆がもっと強くなることを期待しています。

**別役団長** そうなれるように我々も努力していかなければならないと思います。

**ダニエル** 団員の確保、特に若い消防団員の確保には、どんな対策を取っていますか。

**下村副団長** 毎月町内の各戸に配布される広報紙で消防団の活動をPRするとともに団員募集の記事を掲載しています。しかし、それだけではなかなか入団者が集まらないので、各分団がそれぞれの地域で自治会にお願いしたり、若い人に声をかけたりと地道な活動をしています。最近では、町内の企業にお願いをして、災害時に応援をしてもらう機能別消防団という形で、団員を確保しています。

**ダニエル** 小学校や中学校を回って消防団をPRするという事は行われていますか。

**下村副団長** 春と秋の火災予防週間に幼稚園児と一緒に防火パレードをしたり、消防車に親しんでもらうという活動はしています。

**竹本分団長** 私の住んでいる地域では、40年くらい前から、小学校の3年生と幼稚園の年長の子供たちを招いて、毎年、初午の前後に放水体験などをしてもらうという行事を実施しています。

**ダニエル** いろいろなPRをしているわけで

# 消防団たずねあるき



広報いの



「広報いの」を見ながら

すね。若い消防団員を確保するにはどんなことが必要だと思いますか。

**下村副団長** 消防団単独では限界があると思います。行政のバックアップをいただいて、何らかの特典を設けることができたらし思います。損得だけで入団してもらえないものではないでしょうが、何かを考え、若者にアプローチしていかなければいけないと思います。

**ダニエル** 自分たちの町を守るために消防団員になったんだという、皆さんのお気持ちをわかってもらえればいいのでしょうか…

**下村副団長** これも時代の流れでしょうけど、我々が消防団員になった30年ほど前と今ではあらゆることが変わってしまっていますからね。もちろん今でも我々と同じ気持ちで入団してくれる若者もいますが、割合としては少ないですね。

**ダニエル** 平均年齢が高くなると、若い人はますます入りにくくなってしまいかもかもしれませんね。ここは思い切ったPRをしないといけませんね。

**別役団長** 何かありませんか。

**ダニエル** こちらにも若いイケメンの団員さんがいるでしょう。

**別役団長** そりゃあいますよ。

**ダニエル** その人たちの写真を使ってPRするとか…

**下村副団長** 消防団に入ると嫁さんがもらいやすいとか…

**ダニエル** そういうイメージを持っている消防団、「いい男の集まり」という感じで…

**一同** (笑)

**ダニエル** 今日お集まりの皆さんもなかなかいい男ですからね。

そうだ。皆さんの写真を使ったカレンダーを作ったらどうでしょう。

**一同** (笑)

**ダニエル** 消防士カレンダーというのは、アメリカには結構あるんですよ。

**下村副団長** いの町消防団でカレンダーを作るときには、ダニエルさんも参加してください。

**一同** (笑)

**別役団長** 団員の定数を確保できていないことに問題意識は持っていますが、単なる数合

## 消防団たずねあるき

わせをすることなら可能です。でも、実際に出勤して活動できない団員がいても意味はありません。

**ダニエル** 確かにそうですね。

**別役団長** 団員を確保するには、そういう問題もあります。

**ダニエル** これからも考えて行かなければならない問題ですね。

**別役団長** 若い女性の消防団員を採用したこともありましたが、若い女性だと、どうしても結婚を機に退職してしまうということがありました。ですから、女性消防団員でも人生がある程度落ち着いていて、ご主人と二人で活動してくれるというような方が頼りになります。

**ダニエル** いろいろな事情がありますね。でも、PRの方法もいろいろありますからね。

**下村副団長** 操法のために、入団者が遠のいているということもあるかもしれません。いの町消防団では全国大会を視野に入れて厳しい訓練をしますから、それについていけないと、引

け目を感じてしまうでしょうから。

**ダニエル** ふたつに分けたらどうでしょう。操法の選手になる人とならない人ということで。オラが留学した奈良の高校にも進学コースとスポーツコースがありました。

**下村副団長** スポーツの強豪校は日本全国から選手を募りますが、消防団はそうはいきませんからね。それと操法のチームは分団単位で編成されていますから、なかなかそれだけの人員の余裕がありません。

**ダニエル** むずかしいですね。

消防団員になってみれば、それなりの魅力があると皆さんおっしゃいますけどね。

皆さんは、消防団のどんなところに魅力を感じていますか。

**別役団長** 私の場合は、入団するきっかけにもなった災害を受けていますので、そういうことが二度とないように住民の皆さんの力になっていきたいという思いがあります。そう思えることが消防団員であることの魅力です。また、



対談風景

# 消防団たずねあるき

ポンプ操法でも全国大会に出場して結果が出ればものすごく感動します。

**下村副団長** 魅力というか、なぜ消防団員を続けるのかと聞かれば、地域に対する貢献ですね。そうしたいという気持ちがあるから続けていられるのだと思います。

**竹本分団長** 消防団というのは縦の社会で規律を持って動き、みんなでひとつのことに当たるということに魅力を感じます。他にも奉仕団体はいろいろありますが、消防団の体制は少し違って、それが同時に魅力でもあります。

**竹村分団長** 我が消防団は、あらゆる面で、県内でも有数の消防団と言えます。その一員でいられることが魅力です。

**大岡副団長** 災害から人々を守ることができるというのが最大の魅力です。例えば、火災現場に出動して消火活動が上手くできたときなどは、「やった！」という感じです。現場から引き上げて、煤や煙で真っ黒な顔のまま同僚と一服した時に感じた、あの達成感は忘れられません。もちろん火事はないに越したことはないですが。

**ダニエル** オラの親父も消防士だったので、大岡副団長とまったく同じことを言っていました。現場に行った人だけが感じられる達成感なのでしょうね。

消防団は、いつ来るかわからない災害にいつも備えていなければいけないという辛さがありますよね。もちろん、いざ来た時には、大いに活躍されるでしょうが。

**別役団長** 召集のサイレンが鳴れば、消防団員は誰でも「俺が行くぞ！」という気持ちで気迫を持って出動すると思います。だからこそ、終わった後の達成感を強く感じられるのだと思

います。

**ダニエル** そういう体験談を集めて、若者にPRしたらどうでしょう。「あの時は大変だった」「でも、終わった後の達成感は」ということで。

それと、やっぱりカレンダーですよ。

**一同** (笑)

## S-KYT研修

いの町では、S-KYT研修に取り組んだそうです。そのお話をうかがいましょう。

**ダニエル** こちらの消防団ではS-KYT研修を受けられましたよね。

**別役団長** 平成23年8月に実施しました。また、平成20年には、同じ公務災害防止研修であり、高知縣市町村総合事務組合が消防基金と共催した安全管理セミナーにも参加しています。

**ダニエル** 皆さん受講されましたか。

**下村副団長** 部長以上の幹部団員が受講しました。団長、副団長は監督者として出席しまして、研修は見ていただけですが、事故防止のためには効果があるだろうと感じました。

**別役団長** 研修中、随所で行われる指差し呼称というのは電車の運行の際や工場などの生産現場でも行われています。消防団活動でも状況を確認するために有効だと思いますね。

**ダニエル** 実際に受講されたお二人の分団長はいかがでしたか。

**竹村分団長** 消防作業の中の危険という事について、それまでの自分の認識は甘かったと感じました。

## 消防団たずねあるき

**竹本分団長** 事前に危険を予測するというこ  
とは、活動中の事故防止に多いに役立つと思  
います。

**ダニエル** 日常生活の中でも役立つとい  
うお話をよくお聞きしますが。

**下村副団長** 家庭でも職場でも役立つでし  
ょう。

**ダニエル** 研修を受講された方は、いろい  
ろなことに対して見る目が変わるとよく言わ  
れます。

**下村副団長** 私も歳のせいか、いろいろ忘れ  
っぽくなっているので、確認のためにいいと思  
います。

**ダニエル** 「携帯電話ヨシ!」、「鍵ヨシ!」  
という感じでしょうかね。

**一同** (笑)

**下村副団長** 受講した団員は、全員が良かつ  
たと思っているでしょう。

**別役団長** 私もそう思います。とにかく、  
今後の消防団活動の中で活かしてもらいた  
いです。

最後に、これからのことについてうかがいま  
しょう。

**ダニエル** 別役団長は、今後いの町消防団  
をどんな風に行きたいと思ってらっしゃい  
ますか。

**別役団長** 時代にあった先進性を追いか  
けて行きたいです。例えば、火災出動をするに  
しても、各消防車にナビゲーションシステムを  
搭載するなどして、今の時代に沿った装備を  
して活動するという方向性にみんなが進んで  
行きたいですね。お金が掛かりますから大変  
ですけど。

行方不明者の捜索の際にはGPSを、河川での  
捜索の際には魚群探知機を活用するなど、使  
えるものは何でも使って消防団活動をしてい  
きたいです。また、そういうものを使える消  
防団でありたいと思います。

**ダニエル** 先端技術を利用できるようにと  
いうことですね。

**別役団長** そうです。そういうものを利用  
すれば、火災現場への出動や消火活動でも、  
行方不明者の捜索でも、より迅速かつ的確に  
行うことができ、被害を最小限に押さえるこ  
とができると思います。

**ダニエル** 新しい技術がどんどん開発され  
る時代ですから、消防団の皆さんもそういう  
システムを待っているところでしょう。

**別役団長** 最近、新たに導入した消防団の  
車両にはナビゲーションシステムを搭載してい  
ます。

**ダニエル** 携帯電話にもある程度のGPS機  
能がついているものもありますから、そうい  
ったものを活用する方法もありますね。それと  
ツイッターですね。一度に大勢の人が見るの  
に適していますから、消防団の召集にも使え  
ると思います。しかもこれは、東日本大震災  
で携帯電話が使えなかった時でも使えたので  
す。

**別役団長** なるほど、そういう身近なもの  
の活用も考えていかなければいけませんね。

**ダニエル** がんばってください。本日は、  
ありがとうございました。

今回もあっという間に予定の時間が来てしま  
いました。

皆さんの穏やかな表情の中に見え隠れする  
消防団員としての自覚と誇りが印象的でした。

## 伝統と先進性

いの町消防団は、操法に代表される伝統を堅持しながらも、団長さんのお話にあったように先端技術を取り入れて行きたいという、先進的な発想を持った消防団です。そこには、地域防災の要としての自覚と、更なるレベルアップを目指そうとする意欲が強く感じられます。

時代の変化とともに消防団も変化しなければならないのですが、変化してはいけない部分もあるでしょう。いの町消防団の伝統の堅持と先進的な発想は、まさにそれを示しているのだと感じました。

今回のお話の中には、消防団を取り巻く問題

も出ていましたが、持ち前のパワーで、きっとそれらを解決していかれることでしょう。

## 終わりに

いの町は山があり、川があり、豊かな自然に恵まれています。でも豊かな自然は時に災害をもたらすことがあります。そんな中で、いの町消防団は、火災水災はもちろん、津波災害をも念頭に入れ、町民の安全のために日夜、誇りを持って活動しています。

いの町消防団の皆さん、これからも片手に伝統を片手に先進性を持って、がんばってください！



対談風景 2